

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 68

学校名・団体名	安城市立今池小学校
HPアドレス	http://swa.anjo.ed.jp/weblog/index.php?id=anjo20
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	日本デンマーク・板倉農場を探ろう
〈活動・研究の意義、目的〉	
<p>① 日本デンマークと呼ばれた安城の農業、そのなかでも模範的な農場であった板倉農場を題材に取り上げて、探究的・協同的に学習を展開することを通して、問題解決の能力や態度を育てる。</p> <p>② 板倉農場をはじめ、日本デンマークと呼ばれた時代の安城の農業経営、そしてそれを支えた人たちについて調べる活動や、調べたことをもとに広める活動を通して、郷土に親しみ、郷土を愛する心情を育む。</p>	

<活動・研究報告>

1 活動時期・内容

(1) 日本デンマークを築いた人たちについて調べる (9月～12月)

9月上旬 [課題をもつ]

- (1) 社会科の学習「開かれていくきょう土」で、明治用水の開削と台地の開墾について学習してきた。その発展として、総合的な学習「日本デンマークと板倉農場」に取り組んだ。導入ではガイダンス学習を行い、安城の農業が日本デンマークと呼ばれるまでに発展した経緯や、安城を農業先進地までに発展させた人物について知り、一人調べを行う課題をもつことができた。

- ・安城にたくさんの視察者が訪れていたと知って驚いた。
- ・多くの人の努力と工夫によって安城農業が盛んになったのだなと思った。
- ・山崎延吉校長は生徒にどんなことを教えたのだろう。
- ・板倉農場ではどんな作物を栽培していたのだろう。
- ・丸碧とはどういう組織だろう。

9月上旬～10月中旬 [調べる]

- (2) 日本デンマークを支えた人物のうちから1名を選び、事前に準備しておいた資料をもとに調べ学習を進めた。調べ学習を終えたところで、他の人物を選択して調べ学習を行った児童とグループをつくり、グループ発表を行った。

- ・山崎延吉先生は農業の新しい知識と技術を教えたので、卒業生たちは地元にもどり、先頭に立って新しい農業を広めたことが分かった。
- ・山崎延吉先生は農村を豊かにするために講演活動を行い、講演回数は1万5千回にもなったと知ってすごいなと思った。
- ・丸碧の卵が東京で販売されるようになったのは、関東大震災の後で2千箱の卵を無料で配布したことがきっかけだと分かった。
- ・岡田菊次郎さんが農林学校を安城に誘致しようとした時、村民はみんな反対だった。それで菊次郎さん一生懸命説得した。安城の将来のことをとって思っていたんだなと思った。

- (3) 調べ学習やグループ発表と並行して、地域の歴史研究会「孤牛会」の方を招き、日本デンマークや日本デンマークを支えた人物について話をいただいた。

- ・山崎延吉先生のペンネームの我農生には、我は農に生まれ、我は農に生き、我は農を生かささんという意味が込められていることが分かった。
- ・農家の卵を村の産業組合が集め、それを丸碧が集めて東京へ送っていた。代金は丸碧から村の産業組合へ、そして各農家の預金通帳へと振り込まれた。とって進んだ仕組みだなと思った。

10月下旬～11月下旬 [追究する]

- (4) 板倉農場は、昭和の初めには年間1万人を越える視察者が見学に訪れ、日本デンマークを代表する農場であった。そこで、板倉農場の特色を、①大規模面積、②多角形農業、③肥料の自給・畜力の利用、④家族経営に分けて調べることにした。各自が4つの特色のうちから一つ選んで調べ学習を行った。そして、同じ特色を選択した児童同士でグループをつくって発表し合い、グループの代表者が全体の場で発表した。

(多角形農業について)

- ・多角形農業だと冬にも仕事があり、1年中働いてすごいと思った。
- ・米や麦の他に野菜や果物も売ってお金が入ってきたことが分かった。
- ・いろいろな作物を栽培してバランスよく農業をしていたことが分かった。
- ・米が不作になっても他の作物でカバーできるのでいいなと思った。
- ・たくさんの種類の作物を栽培して収入が多くていいと思った。
- ・1年中ほとんど休みなく働いて大変だなと思った。

12月上旬～12月中旬 [まとめる]

- (5) 板倉農場の経営について学んだ後、年間1万人を越える視察者を受け入れた源太郎さんの思いや願いについて考えた。その後、板倉源太郎さんについて思うことをまとめた。

- ・多角形農業をやればお金が儲かるから全国に広めたいと思った。
- ・お米以外の作物を作ると、お金を稼げることを知ってほしかった。
- ・肥料を買うとお金が掛かるから、豚を買って肥料を自給すればよいことを広めたかった。
- ・牛を使って耕したり糞摺りをしたりすれば、仕事が楽になるから、他の人にもやってほしいと思った。

- ・大道山を開墾する時に支配人を任されたり、開墾地を小作人に分けて管理を任されたりして、とても信頼されていてすごいなと思った。
- ・没落した元の主人の岡本家へは毎年お米を届けたり、お墓参りを続けたりして思いやりのある優しい人だと思った。
- ・周りの人からも決断力のある人とか、嘘いつわりのない人とか言われて、信頼されていたんだなと思った。
- ・学区にこういう人がいて自慢できるし、みんなに知らせたいと思った。



(ガイダンス学習)



(調べ学習の発表)



(地域講師からの聞き取り)



(グループ代表の発表)



(源太郎さんの願いについての学び)

(2) 日本デンマーク・板倉農場について広める (12月～3月)

12月～3月 [広める]

(1) 全校の児童が総合的な学習や生活科で学んだことをまとめ、他学年の児童や保護者、地域の方に発表する場として「子ども学ぼう会」がある。4年生はテーマ「おいでよ!板倉農場」のもと、特別教室にグループごとにブースを設置した。藁で縄ない体験、碾き臼体験、卵のバック詰め体験などを行う農業体験のブースや、多角形農業の説明とパズルクイズ、畜力機の説明と米・麦・大豆当てクイズ、板倉農場の廃物利用の方法の説明とそれに関連したクイズなどを行う発表・クイズのブースを設け、パネルや農具を準備して発表したり、参加者に体験してもらったりした。



(米・麦・大豆当てクイズのブース)

- ・多角形農業についてB紙を使って説明しました。日本デンマークと呼ばれた安城の多角形農業を進めたのが板倉農場です。源太郎さんが多角形農業で行った工夫や努力を発信できてよかったです。
- ・縄ない体験の係をしました。縄ないはとても大変だけど体験に来た人が一生懸命にやってくれてうれしかったです。昔はこの農家でも縄や蓆は農家の作業場で夜なべ仕事として行っていました。昔の農家の仕事を少しだけでも伝えることができましたと思います。
- ・板倉農場の特色について説明しました。当時の普通の農家は1町くらいの農地でしたが、源太郎さんは裏作も含めて6町もある農地を耕作していました。源太郎さんや家族の苦労と努力についてみんなに知ってもらえてよかったです。



(縄ない体験のブース)

(2) 明治用水流域の4校の代表児童が、「水のかんきょう学習館」で学習したことを互いに発表し合う「明治用水子ども発表会」に参加した。本校の4年生は「今池大好き～今池の自まん板倉農場～」をテーマに、これまで総合的な学習を中心に取り組んできた、学区の東に広がる上倉での農作物栽培の見学、学区の教材園「ミニ上倉」での大豆の栽培体験、安城が日本デンマークと呼ばれたころの代表的農場である板倉農場について学習などをもとに原稿を作成した。発表はプロジェクターを活用し、多角形農業の図表や当時の板倉農場に関する写真などを投影しながら、他校の児童や保護者や地域の方、明治用水関係の方を前に発表した。



(「明治用水子ども発表会」)

- ・当時、全国から注目されていた板倉農場が学区にあったことや、安城が日本のデンマークと呼ばれてすばらしい歴史があったことを、みんなに伝えることができよかったです。
- ・肥料代の節約のために養豚を始めて堆肥を作ったり、豚を蚊から守るためにパイプで煙を送る装置を作ったり、源太郎さんのすごい発想や工夫がみんなに分かってもらえてよかったです。

(3) 板倉農場のパンフレットの作成

本館2階に「板倉農場ミュージアム」がある。部屋の中央には唐箕・除草機・千歯こき、足踏み脱穀機などの昔の農具や、火燧・あんか・羽釜・三河土人形などの昔の道具や置物が置かれている。背面には日本デンマーク時代の安城町の鳥瞰図や昭和23年の学区周辺の航空写真、板倉農場の農耕や飼育の写真パネルが掲載してある。この「板倉農場ミュージアム」に、自分たちが調べてきた板倉農場についてのパンフレットを作成し、来室した人に見てもらいたいという提案があった。そこで、グループで分担して、「板倉源太郎さん」「板倉農場の視察」「板倉農場の経営」「肥料の自給・畜力の利用」「当時の安城の農業」のパンフレットを作成した。



(板倉農場パンフレット)

- ・今年は板倉源太郎さんの生誕150年になります。今池小学校にできた「板倉農場ミュージアム」にたくさんの人に来て、板倉農場や源太郎さんについて知ってもらえるといいなと思います。
- ・今まで学習してきたことをまとめて板倉農場のパンフレットを作りました。板倉農場に興味があって「板倉農場ミュージアム」に来てくれた人が見て、板倉農場のことが広まっていくといいなと思います。

2 活動の成果

- (1) 日本デンマーク・板倉農場を題材に取上げ、探究的・協同的に学習を展開することにより次の成果を上げることができた。
 - ・児童用の資料を活用したり、地域講師等から聞き取りをしたりして、日本デンマークと呼ばれた安城の農業や板倉農場、それを支えた人たちについての理解を深めることができた。
 - ・課題をもって調べたり、他者と協同して学び合いをしたりするなかで、情報収集・処理能力や問題解決の能力・態度を身に付けることができた。
- (2) 日本デンマーク・板倉農場について調べたことを発信する活動により次の成果を上げることができた。
 - ・他学年の児童の他、保護者や地域の人たちに調べたことをまとめて広めることで、日本デンマークを支えた人たちに誇りに感じ、郷土を愛する心情を育てることができた。
 - ・校内に新設された「板倉農場ミュージアム」へ置くパンフレットを作成することで、郷土に親しみをもち、郷土を愛する心情を育てることができた。
 - ・調べたことを発表したり、パンフレットやポスターを作成したりすることを通して、言語能力を育てることができた。